

## 新撰菟玖波集 伝飛鳥井雅康・大内政弘筆

准勅撰連歌集。一条冬良・宗祇撰。明応四年（1495）六月二十日付で准勅撰の論旨は伝達されたが、同年六月五日に草案本が成立して次に中書本が清書され、奏覧・嘉納に至ったのは九月二十六日であった。応仁の乱後、朝廷・幕府が疲弊し、大内政弘の援助によって編纂作業は進行したので、宗祇や猪苗代兼載が相次いで山口に下向しているが、政弘は本集が奏覧される直前の九月十八日に病没している。

極札によると、本書は上巻が飛鳥井雅康、中・下巻を大内政弘筆としており、内容が中書本系統（第二類）なので、兼載が山口まで届けた本を政弘が写す」時間的余裕がないではないが、兼載は政弘危篤の報に接して駆けつけたのであり、信じがたく、また上巻も雅康の筆跡ではない。しかし、草案本系統（第一類）に明応年間書写本が比較的多く遺存しているのに対し、中書本や奏覧本系統（第三類）に古写本が乏しい中で、本書は室町時代中期書写の最古の中書本と言えよう。但し、上巻に10丁、中間に12丁、下巻に2丁の抜き取り欠丁があるほか、中巻に数箇所錯簡がある。（池田）

【書誌】写 二十巻 列帖装 三帖 室町時代中期写。伝飛鳥井雅康・大内政弘筆。縦16.7、横17.5 糎、字面の高さ約14.4 糎。緑色地金色糸瓢箪唐草模様織出緞子表紙。題簽跡なく、後補改装。金布目紙に銀泥で梅花文をあしらった装飾料紙。本文料紙、斐楮交漉紙。仮名序は一面十行、本文は、本文一面十二行。丁数は、上：五括、98丁 中：四括、80丁 下：六括、108丁

極札 包紙「小札」と表書

「 二楽軒飛鳥井雅康卿 初巻 冊（印）  
大内多々良政弘 外二巻 冊 」（表）

奥書は一見するとその存在を認められないが、具に観察すると、全ての帖の最後に、擦り消しの跡が見られ、それは、筆者または旧蔵者の名前と花押を擦り消して抹消したものと認められる。それがなされた時期は不明だが、今後の調査次第では書写年代など、より明らかになる可能性もある。さまざまな方法によるアプローチが期待される。